

2008年の観察記録

野鳥の月別観察日数

種 類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
1 アオゲラ	14	21	25	23	26	14	6	7	19	17	19	20	211
2 アオジ					2					2	1		5
3 アオバト					4								4
4 アカゲラ	24	25	27	25	27	24	25	27	26	27	26	23	306
5 アトリ		2	3									1	6
6 イカル				10	27	5	1	13	4				60
7 イスカ		1											1
8 ウグイス				1	4		7	2					14
9 ウソ	3	7										2	12
10 エナガ	19	23	25	9	17	10		4	16	25	20	17	185
11 オオハクチョウ			14	3								4	21
12 オオマシコ	1												1
13 オナガ		4	1	1	1						2	1	10
14 カケス	7	2	1						8	19	23	16	76
15 カシラダカ			3								1		4
16 カッコウ					12	14							26
17 カルガモ				1									1
18 カワラヒワ	12	20	26	25	27	26	26	27	2		11	1	203
19 キクイタダキ	2	1	7							1	3	3	17
20 キジバト		2	11	25	26	26	24	27	25	21	14	7	208
21 キセキレイ				1	1		1	7	7	1			18
22 キビタキ					27	26	25	22	4	11			115
23 クロツグミ											2		2
24 コガラ	1	12	20	18	11	1				5	2	5	75
25 コゲラ	23	24	21	24	27	26	22	26	24	27	18	21	283
26 コサメビタキ							1		1	2			4
27 ゴジュウカラ	17	25	26	22	25	17	21	27	23	24	20	18	265
28 コムクドリ				10	21	1							32
29 サンコウチョウ								2					2
30 シジュウカラ	24	25	27	25	27	26	26	27	26	27	26	24	310
31 シメ	24	25	27	25	27	22	4	27	26	27	26	24	284
32 ジョウビタキ	2	22	4	1									29
33 スズメ	24	25	26	25	27	26	24	27	26	27	26	24	307
34 セグロセキレイ											1		1
35 センダイムシク					1	8	6	1		2			18
36 ツグミ	13	24	18	2							4	18	79
37 ツツドリ					3								3
38 トビ	12	17	22	20	16	20	12	13	14	18	14	5	183
39 トラツグミ												1	1
40 ノスリ							4	1					5
41 ハイタカ	17	13	8	10			1		1		11	13	74
42 ハクセキレイ	3			3	13	25	7	1	1	2			55
43 ハシブトガラス	22	25	26	23	26	26	25	26	26	27	26	23	301
44 ハシボソガラス												1	1
45 ヒガラ	9	14	22	17	16	15	9	6	11	21	12	9	161
46 ヒヨドリ	24	25	27	25	27	26	25	26	24	26	26	24	305
47 ヒレンジャク				1									1
48 フクロウ				1	8		1						10
49 ベニヒワ			1										1
50 ベニマシコ	1												1
51 ホトトギス					3	6		1					10
52 マヒワ			2	2							1	6	11
53 マミチャジナイ				1									1
54 ミソサザイ	1		1								3	3	8
55 ムクドリ			4	4	11	4			3		6	21	53
56 メジロ				11	6	11	5	16	13	23	11	2	98
57 モズ	4	6				1	1	11	6	7	2	4	42
58 ヤブサメ					10								10
59 ヤマガラ	24	25	27	24	25	26	26	26	26	27	26	24	306
60 ヤマドリ												1	1
種類数	26	26	29	33	32	27	26	26	25	26	29	32	60

観察された野鳥は60種類でした。このうち300日以上観察されている野鳥はアカゲラ、シジュウカラ、ヤマガラ、スズメ、ハシブトガラス、ヒヨドリの6種類で、これに次ぐ150日以上がカワラヒワ、コゲラ、ゴジュウカラ、ヒガラ、エナガ、シメ、アオゲラ、キジバトなど8種類でした。これらが言わばネイチャーセンターの常連といえます。

スズメの数が年々増え続けており、田んぼの米が稔る時期を除いて、常にこの餌場を占有し、ヒマワリの種子、脂身、リンゴまでも食べるようになり、シメが食べているヒマワリを横から奪い取る状態になりました。メジロやキクイタダキがあまり来なくなった原因のような気がします。

フクロウが、設置した巣箱を利用してこの森で子育てをしました。

今年も、冬鳥とされているシメの子育てを確認しましたが、森だに巣が発見されていません。この森で子育てした個体が冬まで居残っているのか、冬の個体が北海道方面から渡ってきたものかは不明です。

昨年に引き続きアオバトが観察されました。一方、旅鳥としてこの3年ほど春と秋に見られていたノゴマが見られませんでした。昨年度々見られたクロジやカワセミも見られませんでした。

キビタキが5月から10月の間、滝沢森林公園全域で声を聞くことができ、アカゲラとともにこの森を特徴付ける種類です。サンコウチョウは近くの森で子育てをしているようで、たまにこの近くでさえずりを聞きました。

数年前までクロツグミやアカハラの声が夏中聞こえていたのですが、ここ数年ほとんど聞くことがなくなりました。

冬鳥としては、ツグミ、アトリ、ジョウビタキ、マヒワ、ベニマシコ、ウソが観察されました。

野鳥の餌場は、猛禽類の餌場でもあり、ここではハイタカが度々観察されました。雄、雌ともに、窓から観察できる位置でシメやシジュウカラ、時にはスズメ、キジバト、カケス、ヒヨドリまでもが犠牲になっています。

ノスリも近くに生息していますが、餌場近くまでは下りて来ません。

哺乳動物としては、カモシカ、ノウサギ、キツネ、タヌキ、テンが生息しており、時々見かけますが、冬季には森中に足跡が見られます。

小型哺乳類としては、ニホンリスが近くで子育てをしており、センターの窓からその生態を観察することができます。他に、アカネズミ、ヒメネズミ、ヒメズも確認されました。